

「平成 19 年度働きざかり世代の生活習慣実態調査」について

東京都の生活習慣病対策及びがん対策の効果的な推進に役立てることを目的に、都内事業所における定期健康診断及びがん検診の実施状況、30 歳～40 歳代の働きざかり世代男性従業員の生活習慣等について、昨年 12 月に、実態調査を行いました。

このほど調査結果をとりまとめましたのでお知らせします。

調査規模・期間・調査方法

(1) 調査規模：

対象 100 事業所・従業員 1,524 人

回答 87 事業所・従業員 807 人(回答率 事業所 87%、従業員 53%)

(事業所規模別内訳)

大規模(従業員 1,000 人以上)	14 事業所 321 人
中規模(従業員 50 人以上 1,000 人未満)	22 事業所 303 人
小規模(従業員 50 人未満)	51 事業所 183 人

(2) 期間：平成 19 年 12 月 1 日～10 日

(3) 調査方法：調査票の直接配布、郵送回収

◆ 主な調査結果(調査結果のポイントについては裏面参照)

従業員の定期健康診断の受診率は、大規模事業所は 95.0%、中規模事業所は 95.4%、小規模事業所は 77.0%である。

定期健康診断の結果を「受け取ったのみ」の者は 75.8%、「医師、保健師、看護師等から説明を受けた」者は 20.5%である。

「朝食を食べない」者は 24.5%である。

「1 週間に 1 回以上運動している」者は 30%、「運動していないが、今後は始めたいと思っている」者が 27.4%である。

メタボリックシンドロームの意味を「知っている」者は 59.1%である。定義を正しく理解していた者は 25.9%である。

調査結果の詳細は、報告書を参照ください。

【問い合わせ先】

福祉保健局保健政策部健康推進課
電話 03-5320-4363

調査結果のポイント

1 定期健康診断

定期健康診断は、大規模、中規模事業所では 100%、小規模事業所は 78.4%で実施している。(25 ページ)

従業員の定期健康診断の受診率は、大規模事業所では 95.0%、中規模事業所は 95.4%、小規模事業所は 77.0%である。(55 ページ)

定期健康診断結果で何らかの異常を指摘された者は、30 歳代は 34.8%、40 歳代で 63.4%と 40 歳代が多い。異常を指摘された項目は、「脂質代謝異常」が最も多く 55.7%、「肥満」33.6%、「高血圧症」16.8%の順である。(56・57 ページ)

定期健康診断の結果を「受け取ったのみ」の者は 75.8%、「結果について医師、保健師、看護師等から説明を受けた」者は 20.5%である。(56 ページ)

2 がん検診

事業所のがん検診実施率は、胃がん 46.0%、肺がん 37.9%、大腸がん 42.5%、乳がん 32.2%、子宮がん 31.0%である。(26 ページ)

従業員のがん検診受診率は、胃がん 10.4%、大腸がん 8.4%、肺がん 7.2%である。(60 ページ)

がん検診を受けなかった理由は、「職場でがん検診を実施していないから」が 58.1%、次いで「受ける時間がなかった」が 21.7%である。(62 ページ)

3 生活習慣等

「朝食を食べない」者が 24.5%である。(77 ページ)

現在の食事内容に、「少し問題がある」、「問題がある」と思う者の合計は 56.9%で、問題点として、「栄養のバランスが悪い」が 69.9%、「エネルギーの摂取量が多い」が 48.6%、「食事時間が不規則」が 38.3%である。(75・76 ページ)

「1 週間に 1 回以上運動している」者は 30.0%、「不定期にしか運動していない」者が 28.6%、「運動していないが、今後は始めたいと思っている」者が 27.4%である。(82 ページ)

習慣的に運動をしていない理由は、「運動をしようと思うが実行するまでに至らない」が 47.9%と最も多く、次いで「忙しくて時間がない」が 41.3%である。(86 ページ)

「毎日飲酒する」者は、30 歳代 23.0%、40 歳代は 37.4%である。(87 ページ)

禁煙を試みたことがある者は 65.0%。その内、「禁煙に成功した」者は 34.1%である。(91 ページ)

メタボリックシンドロームについての認知度は、「知っている」が 59.1%、「何となく知っている」が 35.6%である。知っている者のうち、定義を正しく理解していた者は 25.9%である。(102 ページ)